

IT 実習の実施に係る資料

週ごとの活動単位

IT 実習 I から IV まで、どの科目も次のようになる。

週	活動単位					内容
	(科目担当教員による会議)					実習テーマ、内容、到達レベル調整
	(事前オリエンテーション)					説明、履修クラスの決定
1 ～ 14	ク ラ ス 1	ク ラ ス 2	ク ラ ス 3	ク ラ ス 4	(ク ラ ス 5)	クラスごとの実習 1 教員ごとに 1 クラスを担当 適宜、中間報告のプレゼンテーション や報告書の作成を実施
15	全クラス合同					最終報告会 (学びの共有)
	(科目担当教員による会議)					評価相互点検

履修クラスの決定方法

学期開始前	科目担当教員は、各自のクラスで実施する実習テーマと具体的な授業計画を提示する。
↓	
授業開始前のオリエンテーション時	説明、クラスの希望調査、学生同士の話し合い、人数調整が難航した場合は抽選を行い、クラスを決定し、登録する。

学生が履修できるのは 1 科目につき 1 クラスであり、2 年次終了までに 4 科目で 4 つの実習テーマに取り組むことになる。必修科目であり、4 から 5 クラスに分かれるので、1 クラス (1 教員) あたりの人数は 20 名から 25 名程度となる。

テーマと内容

開講初年度に各科目で計画している実習テーマを示す。前年度までの状況を踏まえて内容は毎年度改善を図っていく。

- IT 実習 I (1 年前期)「実世界から情報学へ-データサイエンスの世界-」
Python や JavaScript といったプログラミング言語の初歩的な扱い、Excel や R を用いた統計解析の初歩を体験・習得する。入学直後の科目のため、PC の操作に慣れるこ

とも目標に含む。到達目標を評価するために着目する具体的な項目は次の通り。

- オープンデータや地理情報システムなどのデータの中から、もしくはアンケートの実施によって、自身の調査研究やデジタルコンテンツ作成に必要なデータを得ることができる
- 得られたデータに対して、Python などのスクリプト言語を用いることで、分析やデジタルコンテンツ作成に適する形にデータを加工することができる
- Excel や R を用いて、グラフの作成、平均・分散、相関係数などの基本統計量の計算、仮説検定といった基本的な統計処理ができる
- 結果をまとめたプレゼンテーションや報告書の作成、もしくはなんらかのデジタルコンテンツの作成・発信ができる
- 以上の到達目標に達するために必要な程度には PC 操作に習熟している

IT 実習 I では、実習テーマ毎に 1 クラスとして、4 クラスを提供する。具体的な実習テーマと担当者は以下の通り。

- ◇ 時系列データ解析入門（池野英利教授）
- ◇ 地理情報システムの活用（田中克己教授）
- ◇ 社会調査データ分析入門（山本吉伸教授）
- ◇ オープンデータを用いたコンテンツの作成（崔童殷准教授）

➤ IT 実習 II（1 年後期）「IT の世界」

実世界の問題をモデル化しコンピュータを用いて解決する方法、プログラミング技術と各種デバイスを組み合わせた簡単なシステムを構築する方法を体験・習得する。到達目標を評価するために着目する具体的な項目は次の通り。

- 実習に用いるデバイスの仕様、特性を概ね理解し、適切に動作させることができる
- 課題の解決のためにどのようなシステムやプログラムが必要になるか、数理的・論理的な思考法を用いて議論することができる
- デバイスとコンピュータをどのように組み合わせ、どのようなプログラムを組めば課題の解決に必要なシステムを構築できるか検討し、実際に設計したシステムやプログラムを作成することができる
- 作成したシステムやプログラムを適切に制御・動作させ、課題を解決することができる

IT 実習 II では、実習テーマ毎に 1 クラスとして、4 クラスを提供する。具体的な実習テーマと担当者は以下の通り。

- ◇ Raspberry PI と環境センサを用いた環境計測と分析（畠中利治准教授）
- ◇ FPGA と超音波センサを組み合わせたシステム設計（畠中理英准教授）
- ◇ 最適化問題の計算機解法（渡邊扇之介准教授）
- ◇ Lego Mindstorms EV3 によるロボットの走行制御（眞鍋雄貴講師）

▶ IT 実習Ⅲ (2年前期)「メディア情報学-AIの世界-」

コンピュータによる各種メディアの扱い方、機械学習の初歩、TensorFlowなどの既存のライブラリを用いて高度なソフトウェアを開発する方法を体験・習得する。到達目標を評価するために着目する具体的な項目は次の通り。

- ・ テキストや音、画像といったデータがコンピュータ上でどのように表現されるか、およびテキストマイニングやメディアの変換、フィルタ適用といった処理の仕組みの概要を理解し、プログラミングによって実際に解析やメディア処理ができる
- ・ 機械学習の仕組みの概要を理解し、特徴抽出や認識・分類といった課題を機械学習を用いて解決できる
- ・ 上記の機能を有するライブラリを自身のプログラムに組み込み、同様の処理を実行できる

IT 実習Ⅲでは、実習テーマ毎に1クラスとして、5クラスを提供する。具体的な実習テーマと担当者は以下の通り。

- ◇ ゲームプログラミング (西田豊明教授)
- ◇ 自然言語処理入門 (黄宏軒教授)
- ◇ 画像処理と認識・分類 (松山江里教授)
- ◇ 音声処理と自動作曲・編曲 (橋田光代准教授)
- ◇ 人工生命と遺伝的アルゴリズム (前田一貴講師)

▶ IT 実習Ⅳ (2年後期)「ヒューマンインタフェース-複合現実の世界-」

最先端の複合現実の技術を体験し、その扱い方を習得するとともに、チームで1つの成果物を仕上げる経験を積む。到達目標を評価するために着目する具体的な項目は次の通り。

- ・ 複合現実環境を構築する技術について理解し、その特徴を活かした設計・開発ができる
- ・ 複合現実に関する課題に対して、チームで取り組むことができる
- ・ チームによる開発の実際を理解し、基本的なプロジェクトを設計することができる
- ・ 課題に対して作成された成果物に関する適切なプレゼンテーション技術を運用できる

IT 実習Ⅳは他の実習科目同様、4クラスに分かれて実施するが、どのクラスもプロジェクト形式とし、具体的な課題は設けずにテーマ例のみを提示し、学生各自が構想した複合現実コンテンツの開発に取り組む。担当者は倉本到教授、衣川昌宏准教授、河合宏紀講師、藤井叙人講師であり、各教員の専門分野に基づいた指導・助言を行う。

授業計画

基本的には次のような計画になる。

0. 科目担当者会議（合同）：実習内容、レベル、進め方の調整、確認
1. 事前オリエンテーション（合同）：各実習テーマの内容について説明し、クラス選択希望調査、学生同士の話し合いを経て、履修クラスを決定する
2. 実習テーマ別オリエンテーション（各クラス）：概要と授業の進め方の説明、グループ分け（1グループ4,5名で5グループ程度）、作業環境の準備
3. 例題と実習を交えた各種技術やツールの説明（各クラス）
4. 課題の提示と取り組み（各クラス）：教員は進捗を確認しながら、適宜アドバイスや指導を行う
5. プレゼンテーション、報告書の提出、評価の実施（各クラスおよび合同）：各クラスで適宜、中間報告などのプレゼンテーションや報告書の提出を行うが、最終回は全クラス合同で報告会を実施し、履修者全員が集まって学んだことを共有する。同時に、その科目の担当教員全員で評価を行う。

上記の通り、授業は基本的には実習テーマごとに各クラスに分かれて行うが、事前の会議と最終報告会、評価を担当教員全員で行う。これにより、

1. 科目ごとの到達目標の具体的な要求レベル、評価基準の統一を図るとともに
 2. 教員間での教授法の共有、他の専門分野についての学習
 3. 学生の到達レベルの情報共有
- といった、FD活動の一環ともなる。

授業計画・課題の具体例

1年次前期の「IT実習Ⅰ」で予定している実習テーマ「社会調査データ分析入門」を用いて、具体的な計画の例を示す。既に履修クラスは決定したものとし、クラスごとに実施する授業の初回を第1回とする。

第1回～第2回	オリエンテーション ：授業の概要説明、グループ分け、データサイエンスとは、データの表現、統計解析ツール（Excel、R）の紹介 課題 ：Excel、Rで四則演算や関数を用いた計算を試みる。
第3回～第5回	課題発見技術 ：ヒアリングと行動観察、アンケート調査 課題 ：グループごとに何かテーマを設定し、調査目的を達成す

	<p>るための適切なアンケートを設計する。実際に町に出るなどしてアンケートを実施し、データを集める。</p>
第 6 回～第 10 回	<p>データ分析技術：データの加工、グラフの作成、平均・中央値・分散・標準偏差などの基本統計量の計算、仮説検定、回帰分析などについて、概要と方法の説明、および例題を用いた実習</p> <p>課題：グループごとにアンケート結果を分析し、中間レポートとしてまとめる。個々の学生の貢献度合いも明記し、提出する。</p>
第 11 回～第 14 回	<p>発表技術：データとプライバシー、プレゼンテーション技術</p> <p>課題：グループごとにアンケートの分析結果についてのプレゼンテーションを実施し、全体討論を行う。最終レポートを作成し、提出する。</p>
第 15 回	<p>最終報告会（他クラスと合同）：実習で得られた成果について簡潔にまとめ、他クラスの履修者に伝えるとともに、他クラスの成果について聴き、より学びを深めるきっかけとする。</p>

成績評価及び単位認定

学期開始前	その科目の担当教員全員（4 ないし 5 名）で単位認定の基本方針を定める。
各クラスの授業	適宜、中間報告などのプレゼンテーション、報告書の提出を行う。
最終報告会	科目担当教員と履修学生全員が参加の報告会を行い、学生が実習の成果物を中心に学んだ内容を発表する。報告はグループごとで、十分に時間を確保して実施する。
評価	各クラスでの学修成果や最終報告会での発表を確認し、科目担当教員全体で科目の到達目標と学修成果を確保しつつ、成績評価及び単位認定を行う

情報学部情報学科カリキュラムマップ

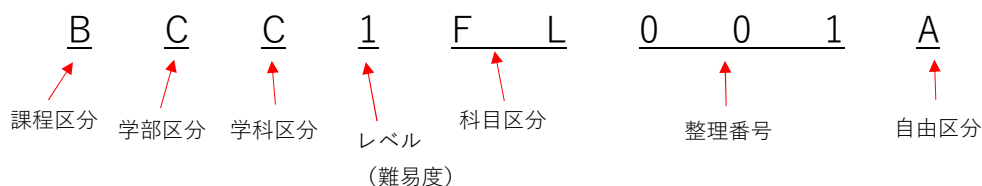
記入例：◎特に関係性が深い、○関係性が深い

科目区分	科目名	単位数	配当年次	開講学期	(1) 情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	(2) 地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	(3) 情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	(4) 人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	(5) 情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる
外国語科目群	English I	1	1	前	○				
	English II	1	1	後	○				
	English III	1	2	前	○				
	English IV	1	2	後	○				
	TOEIC I	1	3	前	○				
	TOEIC II	1	3	後	○				
	中国語 I	1	1	前	○				
	中国語 II	1	1	後	○				
	中国語 III	1	2	前	○				
	中国語 IV	1	2	後	○				
	異文化コミュニケーション	1	1	後	○				
	人文系	哲学	2	1	後	○			
論理学		2	2	後	○				
心理学		2	2	前	○				
歴史学		2	1	前	○				
地理学		2	1	後	○				
教育学		2	1	前	○				
文化人類学		2	1	後	○				
多文化共生論		2	1	前	○				
社会系	法学概論	2	1	後	○				
	日本国憲法	2	1	前	○				
	民法	2	2	前	○				
	商法	2	2	後	○				
	人権論	2	1	前	○				
	経営学入門	2	1	前	○				
	経済学入門	2	1	後	○				
	国際関係論	2	1	後	○				
自然系	数学基礎 I	2	1	前	○				
	数学基礎 II	2	1	後	○				
	線形代数基礎	2	1	前	○				
	微分積分基礎	2	1	前	○				
	線形代数	2	2	後	○				
	微分積分	2	2	後	○				
	多変量解析	2	2	前	○				
	線形計画法	2	2	前	○				
	生物学	2	1	前	○				
	健康学	2	2	前	○				
	環境学	2	1	後	○				
	栄養学	2	1	後	○				
	体育実技 I	1	1	前	○				
	体育実技 II	1	1	後	○				
地域理解科目	地域文化論	2	1	前					○
	地域情報学 I	2	1	前	◎	○	○	○	○
	地域情報学 II	2	1	後	◎	○	○	○	○
	行政学入門	2	1	後					○
	地域資源論	2	1	前					○
	観光総論	2	2	前					○
	地域ベンチャー育成論	2	2	後					○
	地域産業論	2	2	前					○
	地域防災論	2	2	後					○
	観光情報学	2	3	後					○
	地域福祉論	2	3	後					○
	社会保障論	2	1	後					○
	持続可能な社会論	2	2	前	○				◎
	社会福祉論	2	2	前					○
	社会調査論	2	2	前					○
	統計学	2	1	前	◎	○			○
	情報リテラシー	2	1	後	◎				○
	データサイエンス入門	2	1	前	◎	○			○
経営情報システム論	2	2	後					○	
IT産業論	2	3	前					◎	
知的財産論	2	3	前	○				◎	
金融論	2	3	前	○				○	

記入例：◎特に関係性が深い、○関係性が深い

科目区分		科目名	単位数	配当年次	開講学期	(1) 情報学実践の基盤となる堅固な基礎学力、基礎技術力を持つ	(2) 地域の現実のデータを収集・分析し、地域社会の持続と発展のためのシナリオ作成と評価ができる	(3) 情報システムやアプリケーションの開発等により、地域社会を支える情報基盤を構築できる	(4) 人工知能技術やエンタテインメント技術を用いて、地域社会を豊かにできる	(5) 情報学の知見や技術を応用・活用して、公共経営、企業経営、交流観光、医療福祉、防災等のまちづくりに貢献できる		
PBL		I T実習Ⅰ	1	1	前		○	○	○	◎		
		I T実習Ⅱ	1	1	後		○	○	○	◎		
		I T実習Ⅲ	1	2	前		○	○	○	◎		
		I T実習Ⅳ	1	2	後		○	○	○	◎		
		地域情報PBL入門	2	1			○	○	○	◎		
		地域情報PBL基礎	2	2			○	○	○	◎		
		地域情報PBL	4	3			○	○	○	◎		
		地域情報プロジェクト	8	4			○	○	○	◎		
		インターンシップ実習Ⅰ	1	3						○		
		インターンシップ実習Ⅱ	1	3						○		
情報専門基礎		コンピュータプログラミングⅠ	2	1	前	◎		○				
		コンピュータプログラミングⅡ	2	1	後	◎		○				
		インターネット	2	1	前	◎		○				
		情報学アカデミックスキル	1	2	後	◎						
		科学技術コミュニケーション	1	3	後	◎						
データサイエンス	実践系	サービスエンジニアリング	2	1・2	前		◎	○		○		
		オープンデータ技術	2	1・2	後		◎					
		データ理解	2	1・2	前		◎		○			
		データマーケティング	2	1・2	後		◎			○		
		データ解析ツール	2	2・3	後	○	◎					
		基礎データ解析	2	2・3	後	○	◎					
		統計的モデルを用いたシミュレーション	2	2・3	前	○	◎					
		データマイニング	2	3・4	前		◎			○		
	理論系	統計解析	2	3・4	後		◎					
		品質管理	2	3・4	前		◎	○		○		
		統計データモデリング	2	3・4	後		◎			○		
		データ分析と意思決定	2	3・4	後		◎			○		
		ICT	実践系	地理情報システム	2	2・3	前			◎		○
				情報ネットワーク	2	1・2	後			◎		○
				組込みシステム	2	2・3	前			◎		
				情報セキュリティ	2	2・3	前	○		◎		
基礎系	計算機アーキテクチャ		2	1・2	前	○		◎				
	データベースシステム		2	1・2	後	○		◎				
	オペレーティングシステム		2	1・2	後	○		◎				
	分散システム		2	2・3	後			◎		○		
理論系	プログラミング言語処理系	2	2・3	後	○		◎					
	信号情報処理	2	3・4	前	○		◎					
	数値解析	2	3・4	後	○		◎					
	アルゴリズム論	2	3・4	後	○		◎					
	グラフ理論	2	3・4	前	○		◎					
	論理設計	2	3・4	前	○		◎					
	計算理論	2	3・4	後	○		◎					
	情報符号理論	2	3・4	後	○		◎					
人間・社会情報学	実践系	人工知能	2	1・2	前	○			◎	○		
		IoT	2	1・2	後			○	◎			
		エンタテインメント情報学	2	1・2	前				◎	○		
		メディア情報学	2	1・2	後				◎	○		
	基礎系	ゲーム情報学	2	1・2	後				◎	○		
		情報システム	2	2・3	後	○			◎			
		ヒューマンインタフェース	2	2・3	後	○		○	◎			
		機械学習システム	2	2・3	前	○			◎			
		パターン認識と機械学習	2	3・4	前				◎	○		
		画像情報処理	2	3・4	前				◎	○		
理論系	音情報処理	2	3・4	後				◎	○			
	自然言語処理	2	3・4	後				◎	○			

◎福知山公立大学 科目ナンバリング基準 (案)



◎課程区分

学士課程	B	Bachelor
修士課程	M	Master
博士課程	D	Doctor

◎学部区分

全学共通	C	Core Curriculum
地域経営学部	R	Faculty of Regional Management
情報学部	I	Faculty of Information Science

◎学科区分

共通教育	C	Common Educational
地域経営学部・地域経営学科	R	Regional Management
地域経営学部・医療福祉経営学科	M	Medical and Welfare Management
情報学部・情報学科	I	Information Science

◎科目区分

共通教育	外国語・語学科目	FL	Foreign Language
	人文科学科目	CS	Cultural Science
	社会科学科目	SS	Social Science
	自然科学科目	NS	Natural Science
	地域系科目	RE	Regional
	全学共通科目	CC	Common Course
専門	演習系科目	SE	Seminar
地域経営	公共経営系科目	PB	Public Administration
	企業経営系科目	BS	Business Administration
	交流観光系科目	CT	Communication Tourism
医療福祉経営	臨床医学系科目	CM	Clinical Medicine
	医療管理系科目	MM	Management of Medicine
	疾病分類系科目	CD	Classification of Disease
情報	情報専門基礎	IF	IT Fundamental
	データサイエンス	DS	Data Science
	ICT	IT	Information Technology
	人間・社会情報学	HS	Human and Social Informatics

0	年次不問	
1	基礎科目	学部1年次
2	導入科目	学部2年次
3	専門科目	学部3年次
4	総合科目（卒業研究関連）	学部4年次
9	レベル分け困難	

※ 自由区分

自由区分は、学部・学科によって科目をさらに分類（実践系科目、基盤系科目など）したい場合に使用する。

以下は情報学部のみ適用

実践系科目	A
基盤系科目	B
理論系科目	C

2020年度カリキュラム 科目ナンバリング

課程	学部	学科	科目	講義科目名	課程区分	開講学部	開講学科	レベル	科目区分			整理番号			自由区分
									F	L		0	0	1	
学士	全学共通	共通教育	外国語	English I	B	C	C	1	F	L	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	English II	B	C	C	1	F	L	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	English III	B	C	C	2	F	L	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	English IV	B	C	C	2	F	L	0	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	TOEIC I	B	C	C	3	F	L	0	0	5	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	TOEIC II	B	C	C	3	F	L	0	0	6	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	中国語 I	B	C	C	1	F	L	1	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	中国語 II	B	C	C	1	F	L	1	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	中国語 III	B	C	C	2	F	L	1	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	中国語 IV	B	C	C	2	F	L	1	1	4	0	
学士	全学共通	共通教育	外国語	異文化コミュニケーション	B	C	C	1	F	L	2	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	哲学	B	C	C	1	C	S	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	論理学	B	C	C	2	C	S	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	心理学	B	C	C	2	C	S	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	歴史学	B	C	C	1	C	S	1	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	地理学	B	C	C	1	C	S	1	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	教育学	B	C	C	1	C	S	2	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	文化人類学	B	C	C	1	C	S	2	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	人文科学	多文化共生論	B	C	C	1	C	S	2	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	法学概論	B	C	C	1	S	S	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	日本国憲法	B	C	C	1	S	S	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	民法	B	C	C	2	S	S	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	商法	B	C	C	2	S	S	0	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	人権論	B	C	C	1	S	S	0	0	5	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	経済学入門	B	C	C	1	S	S	1	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	経営学入門	B	C	C	1	S	S	2	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	社会科学	国際関係論	B	C	C	1	S	S	3	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	数学基礎 I	B	C	C	1	N	S	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	数学基礎 II	B	C	C	1	N	S	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	線形代数基礎	B	C	C	1	N	S	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	微分積分基礎	B	C	C	1	N	S	0	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	線形代数	B	C	C	2	N	S	0	0	5	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	微分積分	B	C	C	2	N	S	0	0	6	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	多変量解析	B	C	C	2	N	S	0	0	7	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	線形計画法	B	C	C	2	N	S	0	0	8	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	生物学	B	C	C	1	N	S	1	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	環境学	B	C	C	1	N	S	2	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	健康学	B	C	C	2	N	S	2	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	栄養学	B	C	C	1	N	S	2	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	体育実技 I	B	C	C	1	N	S	3	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	自然科学	体育実技 II	B	C	C	1	N	S	3	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域文化論	B	C	C	1	R	E	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域情報学 I	B	C	C	1	R	E	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域情報学 II	B	C	C	1	R	E	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	行政学入門	B	C	C	1	R	E	0	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域資源論	B	C	C	1	R	E	0	0	5	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	観光総論	B	C	C	2	R	E	0	0	6	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域ベンチャー育成論	B	C	C	2	R	E	0	0	7	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域産業論	B	C	C	2	R	E	0	0	8	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域防災論	B	C	C	2	R	E	0	0	9	0	
学士	全学共通	共通教育	地域系	観光情報学	B	C	C	3	R	E	0	1	0	0	

2020年度カリキュラム 科目ナンバリング

課程	学部	学科	科目	講義科目名	課程区分	開講学部	開講学科	レベル	科目区分			整理番号			自由区分
									R	E		0	1	1	
学士	全学共通	共通教育	地域系	地域福祉論	B	C	C	3	R	E	0	1	1	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	社会保障論	B	C	C	1	C	C	0	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	持続可能な社会論	B	C	C	2	C	C	0	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	社会福祉論	B	C	C	2	C	C	0	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	社会調査論	B	C	C	2	C	C	0	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	統計学	B	C	C	1	C	C	1	0	1	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	情報リテラシー	B	C	C	1	C	C	1	0	2	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	データサイエンス入門	B	C	C	1	C	C	1	0	3	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	経営情報システム論	B	C	C	2	C	C	1	0	4	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	IT産業論	B	C	C	3	C	C	1	0	5	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	知的財産論	B	C	C	3	C	C	1	0	6	0	
学士	全学共通	共通教育	全学共通	金融論	B	C	C	3	C	C	1	0	7	0	

2020年度カリキュラム 科目ナンバリング

課程	学部	学科	科目	講義科目名	課程区分	開講学部	開講学科	レベル	科目区分	整理番号	自由区分
学士	情報学部	情報学科	演習	IT実習Ⅰ	B	I	I	1	S E 0 0	1 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	IT実習Ⅱ	B	I	I	1	S E 0 0	2 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	IT実習Ⅲ	B	I	I	2	S E 0 0	3 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	IT実習Ⅳ	B	I	I	2	S E 0 0	4 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	地域情報PBL入門	B	I	I	1	S E 1 0	1 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	地域情報PBL基礎	B	I	I	2	S E 1 0	2 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	地域情報PBL	B	I	I	3	S E 1 0	3 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	地域情報プロジェクト	B	I	I	4	S E 1 0	4 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	インターンシップ実習Ⅰ	B	I	I	3	S E 2 0	1 0	
学士	情報学部	情報学科	演習	インターンシップ実習Ⅱ	B	I	I	3	S E 2 0	2 0	
学士	情報学部	情報学科	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅠ	B	I	I	1	I F 0 0	1 0	
学士	情報学部	情報学科	情報専門基礎	コンピュータプログラミングⅡ	B	I	I	1	I F 0 0	2 0	
学士	情報学部	情報学科	情報専門基礎	インターネット	B	I	I	1	I F 0 0	3 0	
学士	情報学部	情報学科	情報専門基礎	情報学アカデミックスキル	B	I	I	2	I F 0 0	4 0	
学士	情報学部	情報学科	情報専門基礎	科学技術コミュニケーション	B	I	I	3	I F 0 0	5 0	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	サービスエンジニアリング	B	I	I	1	D S 0 0	1 A	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	オープンデータ技術	B	I	I	1	D S 0 0	2 A	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	データ理解	B	I	I	1	D S 0 0	3 A	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	データマーケティング	B	I	I	1	D S 0 0	4 A	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	データ解析ツール	B	I	I	2	D S 0 0	5 B	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	基礎データ解析	B	I	I	2	D S 0 0	6 B	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	統計的モデルを用いたシミュレーション	B	I	I	2	D S 0 0	7 B	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	データマイニング	B	I	I	3	D S 0 0	8 C	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	統計解析	B	I	I	3	D S 0 0	9 C	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	品質管理	B	I	I	3	D S 0 1	0 C	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	統計データモデリング	B	I	I	3	D S 0 1	1 C	
学士	情報学部	情報学科	データサイエンス	データ分析と意思決定	B	I	I	3	D S 0 1	2 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	地理情報システム	B	I	I	2	I T 0 0	1 A	
学士	情報学部	情報学科	ICT	情報ネットワーク	B	I	I	1	I T 0 0	2 A	
学士	情報学部	情報学科	ICT	組込みシステム	B	I	I	2	I T 0 0	3 A	
学士	情報学部	情報学科	ICT	情報セキュリティ	B	I	I	2	I T 0 0	4 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	計算機アーキテクチャ	B	I	I	1	I T 0 0	5 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	分散システム	B	I	I	2	I T 0 0	6 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	データベースシステム	B	I	I	1	I T 0 0	7 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	オペレーティングシステム	B	I	I	1	I T 0 0	8 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	プログラミング言語処理系	B	I	I	2	I T 0 0	9 B	
学士	情報学部	情報学科	ICT	信号情報処理	B	I	I	3	I T 0 1	0 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	数値解析	B	I	I	3	I T 0 1	1 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	アルゴリズム論	B	I	I	3	I T 0 1	2 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	グラフ理論	B	I	I	3	I T 0 1	3 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	論理設計	B	I	I	3	I T 0 1	4 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	計算理論	B	I	I	3	I T 0 1	5 C	
学士	情報学部	情報学科	ICT	情報符号理論	B	I	I	3	I T 0 1	6 C	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	人工知能	B	I	I	1	H S 0 0	1 A	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	IoT	B	I	I	1	H S 0 0	2 A	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	エンタテインメント情報学	B	I	I	1	H S 0 0	3 A	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	メディア情報学	B	I	I	1	H S 0 0	4 A	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	ゲーム情報学	B	I	I	1	H S 0 0	5 A	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	情報システム	B	I	I	2	H S 0 0	6 B	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	ヒューマンインタフェース	B	I	I	2	H S 0 0	7 B	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	機械学習システム	B	I	I	2	H S 0 0	8 B	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	パターン認識と機械学習	B	I	I	3	H S 0 0	9 C	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	画像情報処理	B	I	I	3	H S 0 1	0 C	
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	音情報処理	B	I	I	3	H S 0 1	1 C	

2020年度カリキュラム 科目ナンバリング

課程	学部	学科	科目	講義科目名	課程区分	開講学部	開講学科	レベル	科目区分	整理番号	自由区分
学士	情報学部	情報学科	人間・社会情報学	自然言語処理	B	I	I	3	H S	0 1 2	C

BYOD PC の必要とされる仕様について

ディスプレイ	対角 11 インチ以上
メモリ	8GB 以上
記憶装置	SSD 256GB 以上
CPU	第 7 世代(Kaby Lake)以降の Intel Core i7 相当以上のもの
GPU	NVIDIA GeForce GTX1050 相当以上のもの
バッテリー駆動時間	JEITA Ver. 2.0 で 5 時間以上
キーボード	ハードウェアとして備えていること（タッチパネルのみは不可）
無線 LAN インタフェース	IEEE 802.11a/b/g/n 対応であること
画面出力	HDMI 出力端子を備えていること、もしくは変換アダプタで HDMI 出力が可能なこと
音声入出力	マイク入力端子、オーディオ出力端子を備えていること
USB ポート	2 ポート以上（うち 1 ポートは USB3.0 以上）
OS	Microsoft Windows 10
ソフトウェア	Microsoft Office 2016 以上がプリインストールされていること（Excel, Word, PowerPoint が含まれること）

現時点で流通している各機種仕様の仕様を参考に設定した。なお、これはあくまでも現段階での案である。

既にこれに相当する性能のノート PC を持っている者はそれを活用するものとする。

II ヒューマンインタフェース ～複合現実の世界～

- VR/ARコンテンツの開発 等



Head-Mounted Displayx5程度
Intel Realsense D435x10程度
LeapMotionx5程度
LightWave3D Licences
GPSUnit, ActionCamx5程度



- GPU（GeForce GTX1050 等）
- 開発環境：Unity等

- 開発環境：Python
（TensorFlow等）



共用/大規模計算用PCx5程度

- 機械学習，自然言語処理 等

III メディア情報学 ～AIの世界～

IT実習インフラストラクチャ（演習室・無線LANネットワーク）

IV 実世界から情報学へ ～データサイエンスの世界～

- 時系列データ解析
- オープンデータ利用コンテンツ作成 等

※すべてBYOD PCでまかなうことが可能

BYOD PC (¥200,000)

- CPU Intel Core i7
- メモリ8GB以上
- SSD 256GB以上
- HDMI, USB3.0
- Windows10+Office 2016以上
- 開発環境：Python, JavaScript等



LEGO Mindstorms EV3x5程度

Raspberry Pi Display Kitx25程度
OMRON 環境センサx25程度



- 実世界のモデル化とデバイスの運用 等

ITの世界



福知山公立大学 情報学部情報学科インターンシップ実習先一覧(予定)

業種	事業所名	実習先	所在地	備考
製造業	日東精工株式会社		綾部市	
情報通信業	株式会社 リバティー	京都支店	福知山市	
	株式会社 SHF	本社	福知山市	
運輸業	WILLER 株式会社		大阪市・宮津市	
卸売業	井上株式会社		福知山市	
	中庄本店株式会社		福知山市	
金融業	京都北都信用金庫		宮津市	
福祉	社会福祉法人五十鈴会		福知山市	
	社会福祉法人みつみ福祉会	三愛荘	福知山市	
公務	福知山市	福知山市役所	福知山市	
生活関連サービス業	福知山市観光協会		福知山市	

公立大学法人福知山公立大学組織規程（案）

第1章 総則

（趣旨）

第1条 この規程は、公立大学法人福知山公立大学定款（以下「定款」という。）及び公立大学法人福知山公立大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、公立大学法人福知山公立大学（以下「法人」という。）及び法人が設置する福知山公立大学（以下「大学」という。）の組織に関し必要な事項を定める。

第2章 法人の組織

（理事長選考会議）

第2条 定款第10条第2項に規定する学長となる理事長を選考するために、法人に設置する機関として、理事長選考会議を置く。

2 理事長の選考に必要な事項は、定款第10条第4項から第7項に定める事項のほか、理事長選考会議が定める。

（理事会）

第3条 定款第2章第2節に定めるもののほか、理事会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（経営審議会）

第4条 定款第3章第1節に定めるもののほか、経営審議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（教育研究審議会）

第5条 定款第3章第2節に定めるもののほか、教育研究審議会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（役員）

第6条 定款第2章第1節に定めるもののほか、役員に関し必要な事項は別に定める。

第3章 職員

（職員）

第7条 大学に教員、事務職員その他必要な職員を置く。

2 前項の教員は、教授、准教授、講師、助教とし、その職務は、別表1のとおりとする。

3 前項の職のほか、所要の職を置くことができる。

4 前2項に規定する職の選任に関する事項は、別に定める。

第4章 大学の組織

第1節 学長、副学長

(学長)

第8条 大学に、定款に定めるところにより学長を置く。

2 学長は、学校教育法（昭和22年法律第22号）の定めるところにより、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

3 学長は、教育研究に関する重要事項について決定しようとするときは教育研究審議会の審議を経なければならない。

(副学長)

第9条 大学に、副学長を置く。

2 副学長は、学長の職務を助け、学長の命を受け、大学の教育及び研究に関する業務を統括する。

第2節 教授会

(教授会)

第10条 大学に教授会を置く。

2 教授会の運営に関し必要な事項は別に定める。

第3節 附属施設

(附属施設)

第11条 大学に附属施設を置く。

2 附属施設として、メディアセンター、北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、防災・危機管理センター、国際交流センターを設置し、それぞれセンター長を置く。

3 前項の各センターについて必要な事項は別に定める。

第4節 学部

(設置)

第12条 大学に次の学部を置く。

(1) 地域経営学部

(2) 情報学部

2 地域経営学部には、地域経営学科及び医療福祉経営学科を置く。

3 情報学部には、情報学科を置く。

第13条 学部に学部長をおく。

2 学部長は、学長の命を受け、学部に関する校務を所掌する。

(学科長)

第14条 学科に、学科長をおくことができる。

2 学科長は、学部長の命を受け、学科に関する校務を所掌する。

第5節 委員会

(委員会)

第15条 大学運営を機能的、効率的に推進するため、必要に応じて委員会を設置することができる。

2 委員会については、別に定める。

第6節 事務局の組織

(事務局)

第16条 大学の事務を行うため事務局組織を設置する。

2 大学の事務局は、法人事務局を兼ねる。

3 大学の事務局に別表2のとおりグループを置く。

4 各グループの事務分掌に関することは、別に定める。

(事務局長)

第17条 事務局に、事務局長を置く。

2 事務局長は、学長の命を受け、所管する事務を統括する。

(事務局次長)

第18条 事務局に事務局次長を置く。

2 事務局次長は、事務局長の命を受け、所管する事務を統括する。

(グループマネージャー)

第19条 事務局のグループに、グループマネージャーを置く。

2 グループマネージャーは、事務局次長の命を受けグループの事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

第20条 事務局のグループに、アシスタントマネージャーを置く。

2 アシスタントマネージャーは、グループマネージャーを補佐し、担当の事務を掌理し、担当事務に従事する職員を指揮監督する。

(その他の職)

第 21 条 事務局に、第 17 条から第 20 条に規定する職のほか、必要に応じて所要の職を置くことができる。

第 7 節 役職の任命

(役職の任命)

第 22 条 役職の任命は、別表 3 の右欄に掲げる者のうちから理事長が命ずる。

2 前項の規定にかかわらず、職に命ずる者については、理事長が必要であると認めた場合は、別に定めることができる。

第 5 章 雑則

(委任)

第 23 条 この規程に定めるもののほか、組織に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

(規程の改廃)

第 24 条 この規程の改廃は、必要に応じて理事長が行う。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 32 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 (第 7 条関係)

職	職 務
教授	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
准教授	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
講師	教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
助教	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を

	指導し、又は研究に従事する。
--	----------------

別表 2 (第 16 条関係)

グループ名	担当業務
総務企画・財務グループ	企画戦略
	地域連携・協働
	総務・人事
	財務
学務・学生支援グループ	入試広報
	学務
	学生・キャリアサポート

別表 3 (第 22 条関係)

組織	役職名	左記の職に命ずる者
大学	副学長	理事
大学	学部長	教員
大学	学科長	教員
メディアセンター	メディアセンター長 メディアセンター委員長兼ねる	教員
北近畿地域連携センター	北近畿地域連携センター長 北近畿地域連携センター委員長 兼ねる	教員
市民学習・キャリア支援 センター	市民学習・キャリア支援センタ ー長 市民学習・キャリア支援センタ ー委員長兼ねる	教員
防災・危機管理センター	防災・危機管理センター長 防災・危機管理センター委員長 兼ねる	教員
国際交流センター	国際交流センター長 国際交流センター委員長兼ねる	教員
事務局	事務局長	理事
事務局	事務局次長	職員

事務局	グループマネージャー	職員
事務局	アシスタントマネージャー	職員

公立大学法人福知山公立大学教育研究審議会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人福知山公立大学定款（以下「定款」という。）第20条に規定する教育研究審議会に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 教育研究審議会は、定款第20条第2項の規定に基づき、委員14人以内で組織し、次に掲げる委員により構成する。

- (1) 学長となる理事長（以下この節において「理事長」という。）
- (2) 理事長が指名する理事
- (3) 学部、学科その他の教育研究上の重要な組織の長のうち、理事長が指名する者
- (4) 理事長が指名する職員
- (5) 法人の役員又は職員でない者で大学の教育研究に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、理事長が指名する者

2 前項第4号により、理事長が指名する職員には、教授会において選出された教員（教授、准教授）を含むものとする。

(任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、前条第1項第3号及び4号に掲げる委員の任期は、それぞれ2年以内の当該職にある期間及び1年とする。

2 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集)

第4条 教育研究審議会は、理事長が招集する。

2 教育研究審議会の議案は、招集の際に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

(議長)

第5条 教育研究審議会に議長を置き、理事長をもって充てる。

2 議長が不在の場合は、あらかじめ議長が指名した理事がその職務を行う。

(審議事項)

第6条 教育研究審議会は、定款第22条に掲げる事項を審議する。

2 教育研究審議会の議案は、議長が提出する。

3 定款第22条第9号に掲げる大学の教育研究に関する重要事項は、教授会から審議を委任

された事項のほか、学長が特に必要と認める事項とする。

4 議長は、教授会から審議を委任された事項の審議結果を教授会に報告しなければならない。

(委員以外の者の出席)

第7条 第2条第1項第3号に掲げる委員が特段の事由により出席できない場合は、議長の許可を得て、当該委員と所属を同じくする教員を代理として出席させることができる。

2 前項により出席する代理の委員は、議決に加わることができる。

3 議長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を出席させ意見を聴くことができる。ただし、議決に加わる権利は有しない。

(議事録)

第8条 議長は、教育研究審議会における議事概要について議事録を作成しなければならない。

2 前項に定める議事録には、議長のほか、出席委員の中から議長が指名する2名が記名押印する。

(専門委員会)

第9条 教育研究審議会に、専門の事項を調査、審議又は実施させるために専門委員会を置くことができる。

(事務)

第10条 教育研究審議会に関する事務は、学務・学生支援グループにおいて行う。

(委任)

第11条 この規程に定めるもののほか、教育研究審議会の運営に関し必要な事項は、教育研究審議会の議を経て理事長が別に定める。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、必要に応じて理事長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

公立大学法人福知山公立大学教授会規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、福知山公立大学学則（平成28年公立大学法人福知山公立大学規程第54号）第11条第4項に基づき教授会について必要な事項を定めるものとする。

（教授会）

第2条 教授会は、学部ごとに設置する。

2 前項の教授会は、複数の学部に関わる議案を扱う場合などにおいて、当該学部長が必要と認めるときは、合同で開催することができるものとする。

（組織及び構成）

第3条 教授会は、次に掲げるそれぞれの学部の教員（以下「構成員」という。（第5号）を除き、特任教員、客員教員、非常勤講師を除く）をもって組織する。

（1）教授

（2）准教授

（3）講師

（4）助教

（5）その他学長が必要と認める教員

2 教授会に議長を置き、学部長をもって充てる。

3 学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長が指名した教員がその職務を代行する。

（開催）

第4条 学部長は、次に掲げる事項の場合に教授会を開催する。

（1）学部長が開催の必要があると認めたとき。

（2）教授会構成員の3分の1以上から会議の開催目的等を記載した書面に付して請求があったとき。

（会議の成立）

第5条 教授会は、構成員の過半数の出席により成立するものとする。

（議決）

第6条 教授会の議事は、出席構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（審議事項）

第7条 教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 教員の選考に関する事項
- (4) 学生の懲戒に関する事項
- (5) 教育研究審議会委員及び学長選考委員の選考に関する事項
- (6) 教育課程の編成に関する事項
- (7) 教育・研究及び学部運営についての自己評価・点検に関する事項
- (8) 学長の諮問事項に関する事項
- (9) 教員の教育研究業績の審査に関する事項
- (10) 前各号のほか、教育上・研究上・社会貢献上の重要な事項

2 教授会は、次に掲げる事項を審議し、及び学長の求めに応じて意見を述べることができる。

- (1) 学部に関する規程等の制定及び改廃に関する事項
- (2) 学生の学籍異動に関する事項（前項第4号の場合を除く。）
- (3) その他学部の運営に関する事項
（構成員以外の者の出席）

第8条 議長は、特に必要と認めるときは、構成員以外の者を教授会に出席させ、意見又は説明を聴くことができる。

（議事録）

第9条 教授会は、議事概要について議事録を作成する。

2 前項に定める議事録には、議長のほか、出席者の中から議長が指名する2名が記名押印する。

（事務）

第10条 教授会の事務は、学務・学生支援グループにおいて行う。

（委任）

第11条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

（規程の改廃）

第12条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 32 年 4 月 1 日から施行する。

公立大学法人福知山公立大学委員会設置規程（案）

（趣旨）

第1条 福知山公立大学に関わる事項を審議し、あるいは実施するため委員会を設置する。

（名称等）

第2条 委員会の種類及び名称は、次のとおりとする。

- （1） 自己点検・評価委員会
- （2） 広報委員会
- （3） SD委員会
- （4） 衛生委員会
- （5） メディアセンター委員会
- （6） 北近畿地域連携センター委員会
- （7） 市民学習・キャリア支援センター委員会
- （8） 防災・危機管理センター委員会
- （9） 国際交流センター委員会
- （10） 入試委員会
- （11） 教務委員会
- （12） 学生委員会
- （13） キャリアサポート委員会
- （14） FD委員会
- （15） 人権・倫理委員会
- （16） 研究費不正使用防止対策委員会
- （17） 研究活動不正行為防止対策委員会

（委員長）

第3条 前条第1号及び第16号から第17号の委員会の委員長は、副学長をもって充てる。

- 2 前条第2号から第4号の委員長は、事務局長をもって充てる。
- 3 前条第5号の委員会の委員長は、メディアセンター長をもって充てる。
- 4 前条第6号の委員会の委員長は、北近畿地域連携センター長をもって充てる。
- 5 前条第7号の委員会の委員長は、市民学習・キャリア支援センター長をもって充てる。
- 6 前条第8号の委員会の委員長は、防災・危機管理センター長をもって充てる。
- 7 前条第9号の委員会の委員長は、国際交流センター長をもって充てる。
- 8 前条第10号から第15号に掲げる委員会の委員長の選任は、教授会の議を経て学長が任命する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の責務)

第5条 委員会は、それぞれの所掌事項に関して積極的に企画・立案し、実行し、その活動内容を自ら点検及び評価を行うものとする。

2 委員会で決定した事項は、委員会の責任において教授会に報告するなど、教職員に周知するものとする。

3 全学に影響し教育研究審議会での審議が必要な事項は、教育研究審議会の開催前の然るべき時期までに委員会が次条において総轄する者に報告し、それを受けて総轄する者が教育研究審議会に付議するものとする。

4 委員会の長は、活動内容等を取りまとめ、引き継ぐものとする。

(総轄)

第6条 次の表の左欄に掲げる者は、同表右欄に掲げる委員会を総轄する。

役職名	委員会名
学長	自己点検・評価委員会、広報委員会、SD委員会、衛生委員会、人権・倫理委員会、研究費不正使用防止対策委員会、研究活動不正行為防止対策委員会
学部長	入試委員会、教務委員会、学生委員会、キャリアサポート委員会、FD委員会
北近畿地域連携センター長 北近畿地域連携委員長兼ねる	北近畿地域連携センター委員会
メディアセンター長 メディアセンター委員長兼ねる	メディアセンター委員会
市民学習・キャリア支援センター長 市民学習・キャリア支援センター委員長兼ねる	市民学習・キャリア支援センター委員会
防災・危機管理センター長 防災・危機管理センター委員長兼ねる	防災・危機管理センター委員会
国際交流センター長 国際交流センター委員長兼ねる	国際交流センター委員会

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第8条 この規程の改廃は、必要に応じて理事長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。ただし、防災・危機管理センター委員会及び国際交流センター委員会は、平成29年4月1日に設置することとする。

附 則

この規程は、平成28年6月7日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

公立大学法人福知山公立大学評価委員会

1 設置目的

福知山市は、公立大学法人福知山公立大学が適正かつ健全に業務運営することを目的として、地方独立行政法人法第 11 条に基づき、経営又は教育研究に関し学識経験を有する者により、専門的、客観的、中立的、公平的に業務実績評価等を行う第三者機関である「公立大学法人福知山公立大学評価委員会」を設置しています。

評価委員会では、中期目標・中期計画、年度毎の業務実績評価などについての意見や助言・提言を求めます。

なお、委員会ほどなたでも傍聴いただけます。

2 委員

経営又は教育研究に関し学識経験を有する 5 名の委員で構成

氏 名	職 名 等	備考
青山 公三 (あおやま こうぞう)	京都府立大学名誉教授 龍谷大学政策学部教授	委員長
大久保 正明 (おおくぼ まさあき)	大阪府立大学教育推進課長	委員長職務代理
菊田 学美 (きくた まなみ)	社会保険労務士・行政書士 菊田学美事務所	
中井 博之 (なかい ひろゆき)	学校法人共栄学園理事長	
細見 均 (ほそみ ひとし)	細見税務会計事務所所長	

3 開催状況

平成 30 年度

平成 29 年度

平成 28 年度

平成 27 年度

4 公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価結果

平成 29 年度

平成 28 年度

5 公立大学法人福知山公立大学中期目標

第一期公立大学法人福知山公立大学中期目標（平成 28 年 4 月 1 日～平成 34 年 3 月 31 日）

6 公立大学法人福知山公立大学中期計画・年度計画

中期計画と年度計画については、以下の公立大学法人福知山公立大学ホームページを御覧ください。

7 問い合わせ先 福知山市 市長公室 大学政策課 連携推進係
電話番号 0773-24-7039
電子メール daigaku@city.fukuchiyama.lg.jp

○公立大学法人福知山公立大学評価委員会条例

平成 27 年 9 月 28 日条例第 4 号

公立大学法人福知山公立大学評価委員会条例

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方独立行政法人法（平成 15 年法律第 118 号）第 11 条第 3 項の規定に基づき、公立大学法人福知山公立大学評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織等)

第 2 条 委員会は、委員 5 人以内をもって組織する。

- 2 委員は、経営又は教育研究に関し学識経験を有する者のうちから、市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2 年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(特別委員)

第 3 条 委員会に特別の事項を調査審議させるために必要があるときは、特別委員若干人を置くことができる。

- 2 特別委員は、当該特別の事項に関し学識経験を有する者のうちから、市長が委嘱する。
- 3 特別委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

(委員長)

第 4 条 委員会に、委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第 5 条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 会議は、委員及び議事に関係のある特別委員（以下「委員等」という。）の過半数が出席しなければ、開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員等の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委任)

第 6 条 この条例に定めるもののほか委員会に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 第5条第1項の規定にかかわらず、最初の委員会は、市長が招集する。
(特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 3 特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年福知山市条例第33号)の一部を次のように改正する。
(次のよう略)

公立大学法人福知山公立大学自己点検・評価委員会規程（案）

（趣旨）

第1条 この規程は、公立大学法人福知山公立大学委員会規程第2条第1号に規定する自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第2条 委員は、副学長及び本学の教員3名以上をもって組織し、各学部の教員を1名以上含めることとする。ただし、特別任用教員、客員教員、非常勤講師は除く。

2 その他委員長が必要と認める者を置く。

（委員長等）

第3条 委員会に委員長を置く。

2 委員長及び委員長以外の委員については、教授会の議を経て学長が任命する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（任期）

第4条 委員長及び委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価に係る基本方針及び自己点検・評価項目の策定
- (2) 自己点検・評価の実施、組織及び内部質保証の体制
- (3) 各組織の自己点検・評価の総括
- (4) 自己点検・評価結果の公表
- (5) 学校教育法に定める認証評価に係る事項

（会議）

第6条 委員会は、委員長が招集し議長となる。

2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4 委員長は、第2条に規定された者のほか必要と認める者を会議に出席させることができる。

（専門委員会）

第7条 委員会に必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員会が行う第5条各号に掲げる事項の審議に関し、必要な専門的事

項を調査及び審議する。

3 専門委員会の組織、議事その他必要な事項は、自己点検・評価委員長が決定する。

(事務)

第8条 委員会の事務は、総務企画・財務グループにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年12月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成32年4月1日から施行する。

公立大学法人福知山公立大学 F D 委員会規程（案）

（趣旨）

第 1 条 この規程は、公立大学法人福知山公立大学委員会規程第 2 条第 1 項第 15 号に規定する F D 委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

（組織）

第 2 条 委員は、本学の教員 3 名以上をもって組織し、各学部の教員を 1 名以上含めることとする。ただし、特別任用教員、客員教員、非常勤講師は除く。

2 その他委員長が必要と認める者を置く。

（委員長等）

第 3 条 委員会に委員長を置く。

2 委員長及び委員長以外の委員については、教授会の議を経て学長が任命する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

（任期）

第 4 条 委員長及び委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 前項に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（所掌事項）

第 5 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- （1） F D 活動の計画立案
- （2） F D 活動の実施計画の立案
- （3） F D 活動の評価
- （4） F D 活動に関する情報の収集と提供

（会議）

第 6 条 委員会は、委員長が招集し議長となる。

2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長は、第 2 条に規定された者のほか必要と認める者を会議に出席させることができる。

（専門委員会）

第 7 条 委員会に必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員会が行う第 5 条各号に掲げる事項の審議に関し、必要な専門的事項を調査及び審議する。

3 専門委員会の組織、議事その他必要な事項は、FD委員長が決定する。

(事務)

第8条 委員会の事務は、学務・学生支援グループにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成32年4月1日から施行する。

2017 年度 FD フォーラム日程

月	日	内容	出席者
6月	21日(水)	Gmail の使い方、研究倫理について、事務研修	22人
7月	19日(水)	アクティブラーニングとハラスメント研修	19人
8月	23日(水)	シンポジウム：「地域協働型教育研究」とは何か	19人
9月	27日(水)	授業評価アンケートの分析	19人
10月	25日(水)	戦後大学教育史、林啓介先生	17人
11月	22日(水)	地域協働型実践教育の事例紹介	19人
12月	20日(水)	実践教育の在り方に関するグループディスカッション	20人
3月	28日(水)	情報セキュリティ研修	17人

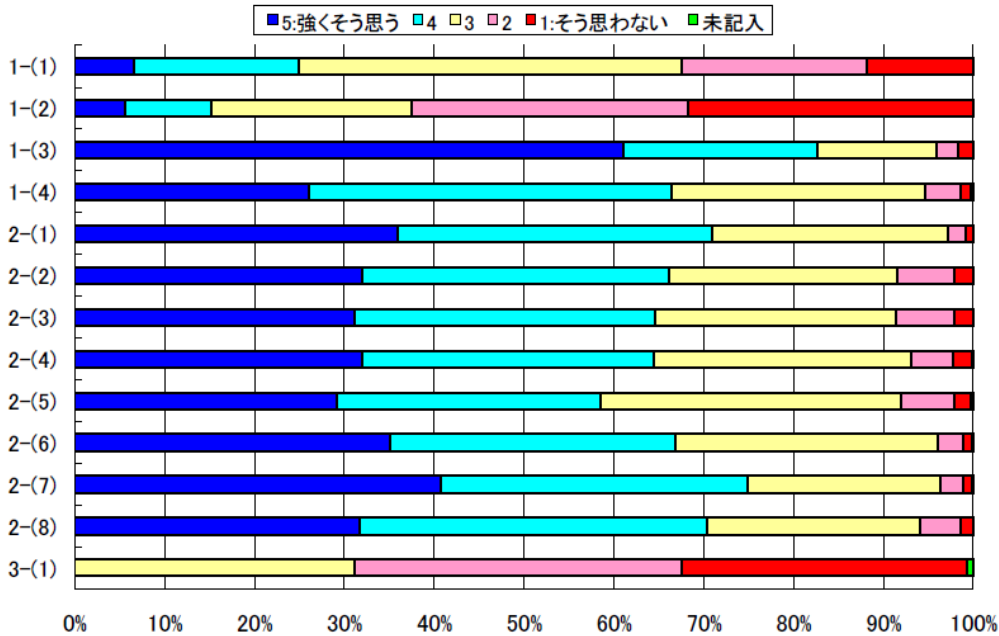
2018年度 FD フォーラム日程

月	日	内容	出席教員
4月	25日(水)	1. 研究倫理講習 2. 教員必携	22人
5月	23日(水)	1. 新学部設置の進捗状況に関する報告 2. 新学部の名称に関する意見聴取 3. 地域経営学部のあり方に関する意見聴取	21人
6月	27日(水)	1. 科学研究費獲得について 2. 教員プロジェクトの学内発表 3. 教員紹介	17人
7月	25日(水)	1. 内部統制に関する研修 2. 教員紹介	19人
8月	22日(水)	1. 2017年度学生生活調査、2018年度学生住居調査の結果の共有	17人
9月	26日(水)	1. ハザードマップ紹介 2. 国際交流研修報告 3. 科研費獲得、研究推進への研修 4. 教員紹介	16人
10月	24日(水)	1. 最新の就活事情と支援の在り方について 2. 教員紹介	23人
11月	28日(水)	講演「トランジションリレーを見据えたアクティブラーニング型授業の実現」 溝上 慎一氏(学校法人桐蔭学園理事長代理、トランジションセンター所長)	20名
12月	19日(水)	1. ふるさと納税について 2. 事務システム研修(3. まちかどキャンパス報告 4. 教育アンケートの実施結果の共有	20名
1月	23日(水)	1. Web Class の利用に関する説明 2. SNS の利用及び情報セキュリティ 3. まちかどキャンパス活動報告 4. 教育アンケート結果の共有	18名
2月	27日(水)	個人情報等の取り扱いについて	20名
3月	6日(水)	「地域協働型教育」研究報告会	17名

平成 2 9 年度前期 授業評価アンケート集計結果 (全学)

999999 : 全科目 (全教員)
履修者数 : 3152 回答枚数 : 2440

- 1-(1) この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある
- 1-(2) あなたは毎回平均どれくらいこの授業の予習・復習をおこなったか
5:2時間以上、4:1時間30分程度、3:1時間程度、2:30分程度、1:0時間
- 1-(3) この授業の欠席回数は
5:欠席なし、4:1~2回欠席、3:3~4回欠席、2:5~6回欠席、1:7回以上欠席
- 1-(4) この授業に対して意欲的に取り組んだか
- 2-(1) シラバス(履修のてびき)は参考になった(目的・内容・評価等)
- 2-(2) 教員の話し方や説明方法が分かりやすかった
- 2-(3) 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていた
- 2-(4) プリントなどの教材が見やすく分かりやすかった
- 2-(5) 私語を注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた
- 2-(6) 学生の質問に対して教員は適切に対応した
- 2-(7) 教員の熱意や意欲が感じられた
- 2-(8) この授業を5点満点で評価してください
5:5点、4:4点、3:3点、2:2点、1:1点
- 3-(1) この授業を履修した理由を右記から選んで下さい
5:シラバスの内容で判断、4:科目名で判断、3:担当教員で判断、2:時間割の都合で判断、1:その他

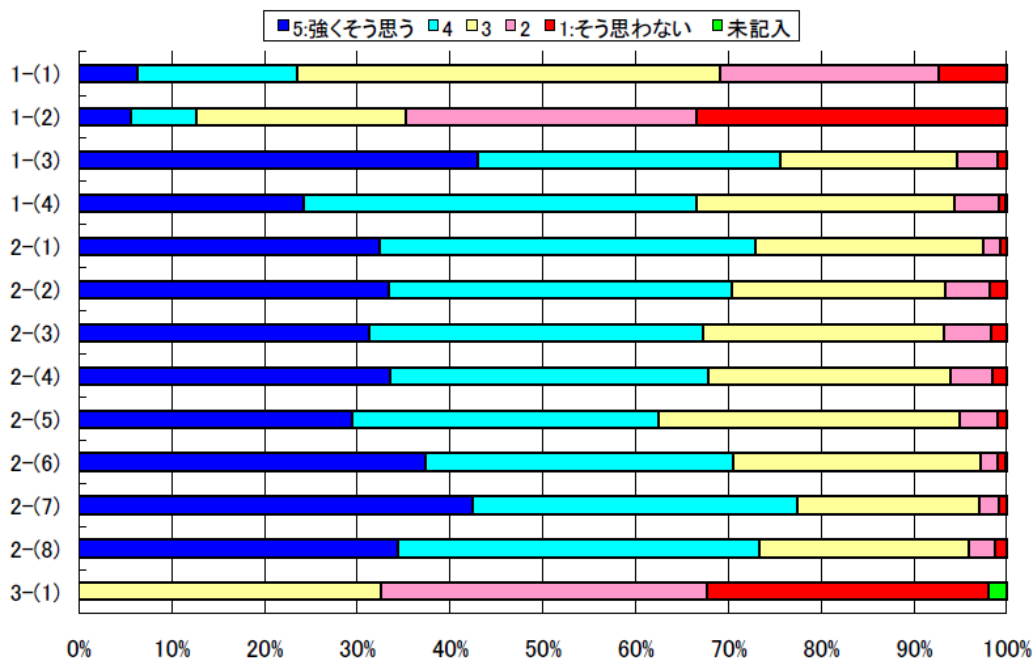


	5:強く思う	4	3	2	1:そう思わない	未記入
1-(1)	161	447	1038	504	289	1
1-(2)	137	234	543	751	774	1
1-(3)	1491	524	324	61	39	1
1-(4)	636	983	691	95	28	7
2-(1)	876	856	638	49	19	2
2-(2)	782	830	621	157	49	1
2-(3)	759	816	656	156	52	1
2-(4)	780	791	699	113	54	3
2-(5)	713	715	816	144	45	7
2-(6)	857	775	711	68	25	4
2-(7)	993	834	522	64	24	3
2-(8)	772	946	578	109	34	1
3-(1)	0	0	760	887	776	17

平成29年度後期 授業評価アンケート集計結果（全体）

999999：全科目（全教員）
履修者数：2671 回答枚数：1973

- 1-(1) この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある
- 1-(2) あなたは毎回平均どれくらいこの授業の予習・復習をおこなったか
5:2時間以上、4:1時間30分程度、3:1時間程度、2:30分程度、1:0時間
- 1-(3) この授業の欠席回数は
5:欠席なし、4:1～2回欠席、3:3～4回欠席、2:5～6回欠席、1:7回以上欠席
- 1-(4) この授業に対して意欲的に取り組んだか
- 2-(1) シラバス（履修のてびき）は参考になった（目的・内容・評価等）
- 2-(2) 教員の話し方や説明方法が分かりやすかった
- 2-(3) 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていた
- 2-(4) プリントなどの教材が見やすく分かりやすかった
- 2-(5) 私語を注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた
- 2-(6) 学生の質問に対して教員は適切に対応した
- 2-(7) 教員の熱意や意欲が感じられた
- 2-(8) この授業を5点満点で評価してください
5:5点、4:4点、3:3点、2:2点、1:1点
- 3-(1) この授業を履修した理由を右記から選んで下さい
5:シラバスの内容で判断、4:科目名で判断、3:担当教員で判断、2:時間割の都合で判断、1:その他

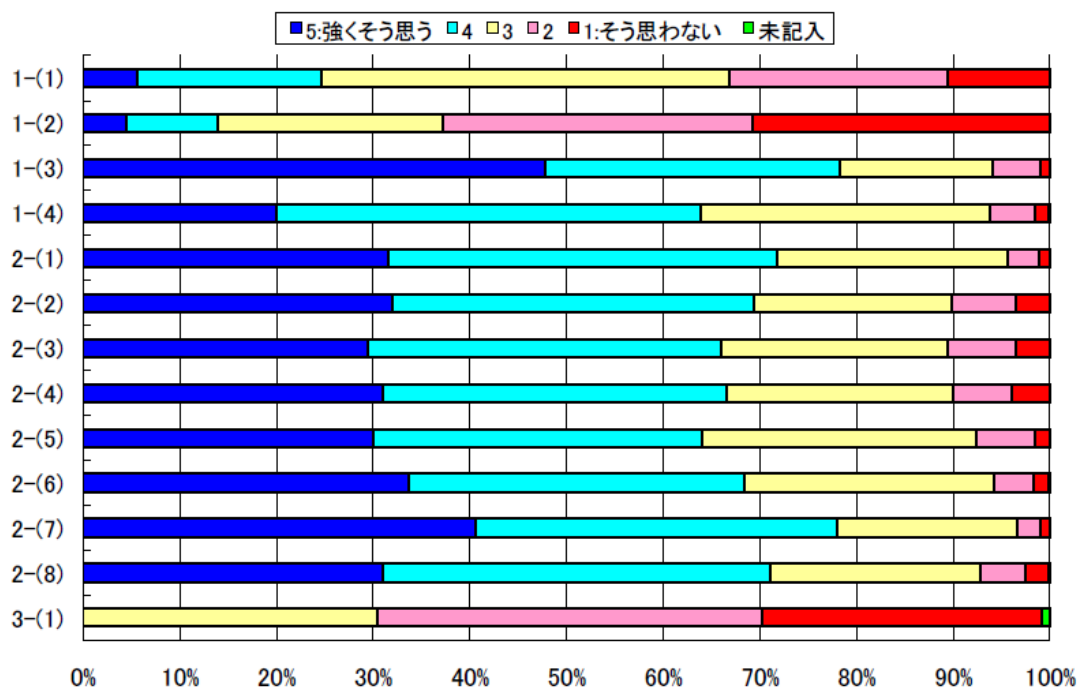


	5:強く思う	4	3	2	1:そう思わない	未記入
1-(1)	123	341	900	464	144	1
1-(2)	110	140	446	618	658	1
1-(3)	849	643	376	86	18	1
1-(4)	479	834	549	94	15	2
2-(1)	639	798	486	35	15	0
2-(2)	660	729	454	94	36	0
2-(3)	617	709	514	100	33	0
2-(4)	661	677	514	91	30	0
2-(5)	580	653	639	81	19	1
2-(6)	737	654	526	37	17	2
2-(7)	836	691	386	43	17	0
2-(8)	677	770	446	56	23	1
3-(1)	0	0	641	694	598	40

平成30年度前期 授業評価アンケート集計結果 (全学)

履修者数 : 4983 回答枚数 : 3894

- 1-(1) この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある
 1-(2) あなたは毎回平均どれくらいこの授業の予習・復習をおこなったか
 5:2時間以上、4:1時間30分程度、3:1時間程度、2:30分程度、1:0時間
 1-(3) この授業の欠席回数は
 5:欠席なし、4:1~2回欠席、3:3~4回欠席、2:5~6回欠席、1:7回以上欠席
 1-(4) この授業に対して意欲的に取り組んだか
 2-(1) シラバス(履修のてびき)は参考になった(目的・内容・評価等)
 2-(2) 教員の話し方や説明方法が分かりやすかった
 2-(3) 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていた
 2-(4) プリントなどの教材が見やすく分かりやすかった
 2-(5) 私語を注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた
 2-(6) 学生の質問に対して教員は適切に対応した
 2-(7) 教員の熱意や意欲が感じられた
 2-(8) この授業を5点満点で評価してください
 5:5点、4:4点、3:3点、2:2点、1:1点
 3-(1) この授業を履修した理由を右記から選んで下さい
 5:シラバスの内容で判断、4:科目名で判断、3:担当教員で判断、2:時間割の都合で判断、1:その他

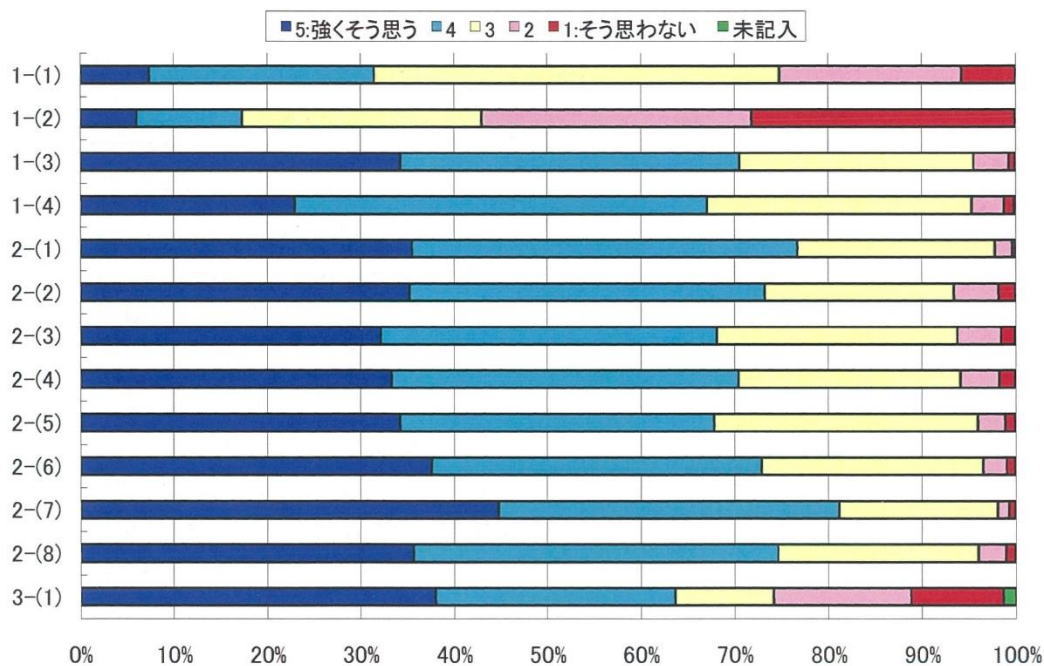


	5:強く思う	4	3	2	1:そう思わない	未記入
1-(1)	218	740	1646	879	411	0
1-(2)	176	364	911	1247	1195	1
1-(3)	1858	1192	610	194	40	0
1-(4)	779	1707	1164	181	56	7
2-(1)	1231	1563	927	127	46	0
2-(2)	1244	1456	799	257	137	1
2-(3)	1146	1422	912	275	139	0
2-(4)	1206	1384	914	235	155	0
2-(5)	1171	1321	1105	234	60	3
2-(6)	1309	1351	1010	157	63	4
2-(7)	1582	1455	727	91	39	0
2-(8)	1206	1564	844	180	96	4
3-(1)	0	0	1187	1549	1127	31

平成30年度後期 授業評価アンケート集計結果 (全学)

履修者数 : 3830 回答枚数 : 2906

- 1-(1) この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある
 1-(2) あなたは毎回平均どれくらいこの授業の予習・復習をおこなったか
 5:2時間以上、4:1時間30分程度、3:1時間程度、2:30分程度、1:0時間
 1-(3) この授業の欠席回数は
 5:欠席なし、4:1~2回欠席、3:3~4回欠席、2:5~6回欠席、1:7回以上欠席
 1-(4) この授業に対して意欲的に取り組んだか
 2-(1) シラバス(履修のてびき)は参考になった(目的・内容・評価等)
 2-(2) 教員の話し方や説明方法が分かりやすかった
 2-(3) 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていた
 2-(4) プリントなどの教材が見やすく分かりやすかった
 2-(5) 私語を注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた
 2-(6) 学生の質問に対して教員は適切に対応した
 2-(7) 教員の熱意や意欲が感じられた
 2-(8) この授業を5点満点で評価してください
 5:5点、4:4点、3:3点、2:2点、1:1点
 3-(1) この授業を履修した理由を右記から選んで下さい
 5:シラバスの内容で判断、4:科目名で判断、3:担当教員で判断、2:時間割の都合で判断、1:その他



	5:強く思う	4	3	2	1:そう思わない	未記入
1-(1)	213	700	1259	566	166	2
1-(2)	175	327	746	839	816	3
1-(3)	994	1056	725	110	18	3
1-(4)	667	1282	820	100	30	7
2-(1)	1030	1197	614	54	9	2
2-(2)	1022	1105	586	139	52	2
2-(3)	933	1046	746	135	42	4
2-(4)	965	1082	687	121	48	3
2-(5)	993	978	817	85	29	4
2-(6)	1091	1025	689	72	26	3
2-(7)	1300	1058	491	36	18	3
2-(8)	1034	1134	621	85	28	4
3-(1)	1103	746	305	427	285	40

2018 年度前学期末 学生による授業評価アンケート

※それぞれの項目及び質問について、回答欄に「○」印を記入して下さい。
 記入時には枠からはみ出さないように注意して下さい。
 ※必ず黒のボールペンを使用して下さい。(鉛筆・シャープペンシル不可)

学籍番号:

氏名:

1. 授業に取り組む姿勢について

5 4 3 2 1

- (1) この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識が十分にある
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (2) あなたは毎回平均どれくらいこの授業の予習・復習をおこなったか
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (3) この授業の欠席回数は
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (4) この授業に対して意欲的に取り組んだか
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:2 時間以上、4:1 時間 30 分程度、3:1 時間程度、2:30 分程度、1:0 時間

5:欠席なし、4:1~2 回欠席、3:3~4 回欠席、2:5~6 回欠席、1:7 回以上欠席

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

2. 授業(教員)について

5 4 3 2 1

- (1) 授業はシラバスに基づいて展開された
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (2) 教員の話し方や説明方法が分かりやすかった
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (3) 授業に対して興味・関心が持てるよう工夫されていた
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (4) プリントなどの教材が見やすく分かりやすかった
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (5) 私語を注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されていた
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (6) 学生の質問に対して教員は適切に対応した
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (7) 教員の熱意や意欲が感じられた
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|
- (8) この授業を5点満点で評価してください
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:強くそう思う、4:ややそう思う、3:どちらともいえない、2:あまりそう思わない、1:全くそう思わない

5:5 点、4:4 点、3:3 点、2:2 点、1:1 点

3. その他

5 4 3 2 1

- (1) この授業を履修した理由を右記から選んで下さい
- | | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

5:シラバスの内容で判断(目的・内容・評価等)、4:科目名で判断、3:担当教員で判断、2:時間割の都合で判断、1:その他

4. 自由記述

- (1) この授業の良かった点を書いて下さい

--	--

- (2) この授業で改善してほしい点があれば書いて下さい

--	--

SD研修会一覧（平成 29 年度）

教職員対象

【外部講師】2 件

実施日	テーマ	講師	参加者
10 月 11 日	障がい学生支援制度	同志社大学 田坂祥子氏、 車戸明子氏	28 人
2 月 2 日	新聞の読み方と記事の書き方	京都新聞社 平井利彦氏	18 人

【学内】3 件

実施日	テーマ	講師	参加者
6 月 22 日	①Gmail、共有ドライブの利用方法 の説明 ②研究倫理	①星准教授 ②平野学部長	28 人
7 月 19 日	アクティブラーニングとハラスメント	平野学部長	30 人
3 月 28 日	情報セキュリティ	神谷教授	26 人

職員対象

【職員 SD 研修】5 件

実施日	テーマ	講師	参加者
4 月 27 日	「なぜ、あなたの仕事は終わらないのか」中島聡著を読んで	竹友事務局次長	16 人
5 月 11 日	文章について	山本事務局長	14 人
5 月 18 日	会議の進め方	大橋マネージャー	16 人
7 月 6 日	共有データの管理方法について	竹元	14 人
12 月 19 日	①「なぜ、あなたの仕事は終わらないのか」中島聡著を読んで ②平成 29 年度公立大学法人等運営事務研究会参加報告	①竹友事務局次長 ②荻野、池田、足立、竹元	12 人

SD研修会一覧（平成30年度）

教職員対象

【外部講師】2件

実施日	テーマ	講師	参加者
9月26日	福知山市防災ハザードマップについて	福知山市 総務部危機管理室 主事 吉田秀貴氏	28人
2月27日	個人情報の取扱いに関する研修	西村弁護士	31人

【学内】4件

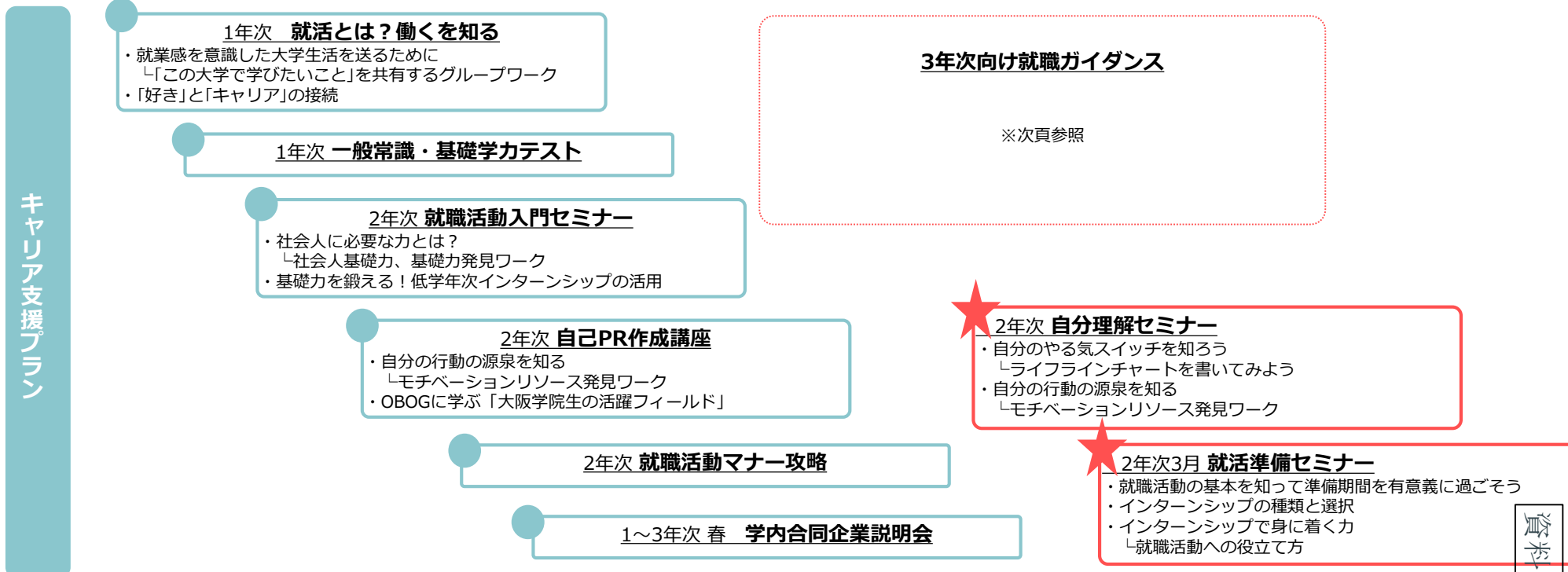
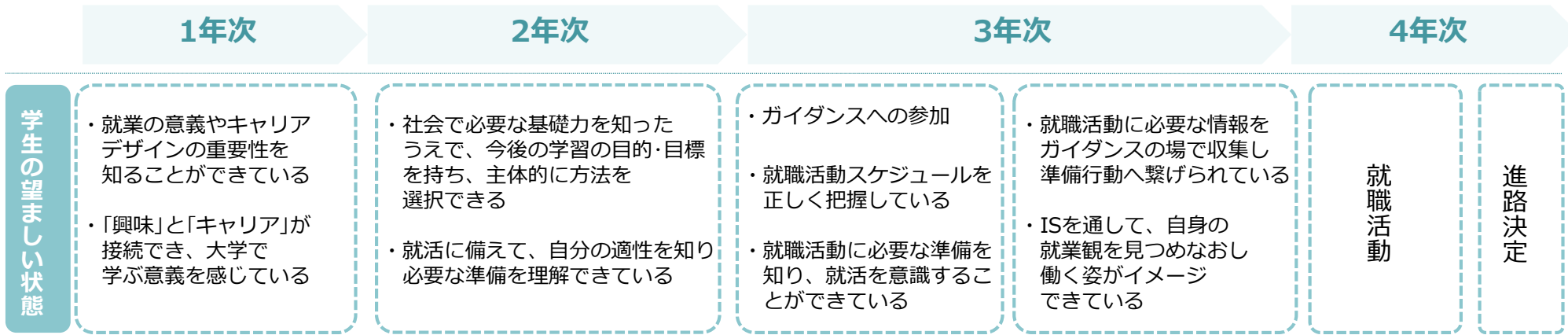
実施日	テーマ	講師	参加者
4月25日	研究倫理研修	平野学部長	29人
7月25日	内部統制について	井上准教授	31人
11月7日	大学の中期・年度計画とPDCAサイクル	井上准教授	23人
1月23日	SNSの利用及び情報セキュリティ	情報セキュリティ専門委員会	29人

職員対象

【職員SD研修】6件

実施日	テーマ	講師	参加者
7月26日	リスクマネジメントにおけるリスクの洗い出しについて	グループワーク	16人
8月23日	クレーム対応～失敗しないクレーム対応とは～	総務企画・財務グループ 荻野	14人
9月18日	①契約事務ガイドラインについて ②旅費精算の変更について	総務企画・財務グループ 矢野	14人
10月18日	規程の策定について	福島教授	15人
12月10日	大学の中期・年度計画とPDCAサイクル	総務企画・財務グループ 竹友次長	15人
2月14日	アンケート調査の分析方法	加藤准教授	16人

■ 就職支援について — 1~4年次 —



■ 就職支援について — 3年次 —

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

望ましい
学生の
状態

- ・就職活動スケジュールを正しく把握している
- ・「自分を知る」「企業を知る」の意味を理解している
- ・自己PRと志望動機への経験を積むことができています

- ・就職活動に必要な情報を洩れなく収集し、十分に準備ができています
- ・ISを通して、自身の就業観を見つめなおし、働く姿がイメージができています
- ・自分の企業を選ぶ軸を理解し、それを言語化できる状態。

就職活動

就職ガイダンス
・
各種セミナー

3年次5月 ナビサイト登録会

- ・大手就職ナビサイトの特徴と概要を説明

3年次6月 自己分析対策・職業適性診断

- ・キャリアアプローチ受験会

3年次6月 インターンシップセミナー

- ・ISの基本情報を知る。
- ・ISの種類や内容について理解し応募ができるように準備をする。

3年次7月 自己分析対策・職業適性診断解説会

- ・キャリアアプローチ受験会

3年次7月 筆記試験対策講座

- ・筆記試験に関する基礎解説

3年次7月 SPI模擬試験

- ・能力適性テストの実施

3年次10月 就職活動入門セミナー

- ・就職環境の理解と準備の重要性を知る
- ・スケジュールや履歴書などの基本の確認

3年次10月 業界研究セミナー

- ・学内に企業を招いて行う、業界研究

3年次10月 自己PR作成講座

- ・学生時代や各自の長所など、自己PRの作成方法を解説

3年次11月 エントリーシート攻略

- ・エントリーシートの作成し、後日添削して返却

3年次11月 就活スーツ着こなし講座

- ・「身だしなみ」のポイント

3年次11月 業界セミナー事前アドバイス

- ・業界セミナー、学内合説参加への心得

3年次 春 学内合同企業説明会

3年次12月 保護者就職説明会

- ・保護者とともに自分の将来を考える

3年次12月 就職活動マナー攻略

- ・ビジネスマナー解説

3年次12月 履歴書攻略トライアル

- ・履歴書作成のポイント解説

3年次12月 面接攻略実践

- ・模擬面接実施

3年次1月 内定者に聞く

- ・早期に内定を獲得した先輩学士が各自の活動体験談や秘訣を発表

3年次1月 『就活直前』対策セミナー

- ・就職活動に必要な準備のおさらい